

「ボランティア」とは……

「ボランティア」という言葉にみなさんはどんなイメージを持っていますか？「ボランティア」の語源はラテン語の“Voluntas(ボルuntas)”という言葉で、「意思」「善意」「自由」「サービス」「チャリティ(愛)」等と訳されるそうですが、今日では「ボランティア」というそのままの言葉で使用されています。

様々な団体がそれぞれに「ボランティア」についての考え方を持っていますが、ここでは、誰もが安心してらせる平和な社会をつくることに、自分の考えで、お金を目的とせずにかかわっていくことや人を「ボランティア」ととらえます。

日本で「ボランティア」というと、福祉分野における奉仕活動、慈善的・献身的な尊い活動というイメージが強かったのですが、近年、その活動領域はより多彩に、身近になっています。例えば阪神淡路大震災の時に多くの人がボランティアとしてかけつけて、様々な形で被災者の支援をしました。また、最近はNPO(Non-Profit Organization, 民間非営利団体)の活動に多くのボランティアが参加しています。

フクザツな社会のややこしい問題、生活に関係する身近な問題……。解決しきれない問題がたくさんある世の中で、誰かのために、何かのために進んで何かをするボランティア活動の意義があらためて脚光を浴びています。

ボランティア活動って大変そう……。私にもできる？

ボランティアは、特別な資格能力を持つ人や特別に志の高い人だけに限られた活動ではありません。子どもも学生も社会人もシニア世代でも、自分の興味や関心によって、また時間の余裕や生活スタイルに合わせてできるのです。日常生活の延長でできることもあります。ボランティアは自分には縁遠いものだと思う人が多いようですが、とても身近なところで楽しみながらボランティア活動をしている人たちもたくさんいます。次ページの活動例を参考にしてください。

ボランティア活動の魅力

人々はなぜ、お金の見返りを求めず、自分の身体や時間を使ってボランティアをするのでしょうか？その大きな一つの理由は、ボランティア活動にはお金では得られないモノがあるからです。出会う、発見する、考える、触発される、心が動く、見つめなおす……。

ボランティア活動の感想で、「誰かの役に立ちたくてボランティアをしてみたら、実は自分のほうが大切なことに気づかせてもらった」という声をよく聞きます。ボランティア活動の経験の豊富な人が「してあげている」ではなく「させてもらっている」と表現することが多いのは、きっと、こうしてボランティア活動を通して形にならないものを得ることを喜びと感じているからなのでしょう。



ボランティア活動・4つの原則

ボランティア活動には、次の4つの理念があるとされています。

1
自分から進んで行動する = 自主性・主体性
自発性・自立性
誰かに強制されてやる活動ではありません。

2
ともに支えあい、学びあう = 社会性・連帯性
公共性・公益性
趣味などの個人にとどまる活動ではありません。

3
見返りを求めない = 無償性・無給性
仕事ではありませんから、必要な費用以上の報酬を求めません。

4
よりよい社会をつくる = 創造性・開拓性・先駆性
社会開発性
行政も企業もやってこなかった・やれなかったけれど社会にとって必要なこと・大切なことをやるという側面がある活動です。

コラム

ボランティア活動の落とし穴

ボランティア活動は、私たちの社会を豊かなものにしていく可能性を秘めています。同時に限界や課題もあります。

例えば、障害のある人の生活を援助するボランティア。慣れてくると、何も聞かずに思い込みで、本人ができることまで手助けをしてプライドを傷つけてしまうことがあります。そのような活動はボランティアの自己満足で、「他人の役に立った」「いいことをした」という幻想に陥っているだけではないかという厳しい指摘もあります。「大きなお世話!」と言われないためにはどうしたらよいのでしょうか？考えてみてください。

また、ボランティア活動は自由にやるのが原則だからといって、気が向いたときだけ活動して自分の都合で勝手にやめてしまえば、活動自体が信用されません。人を相手にする活動の場合は、約束を守ることや相手を尊重するなどコミュニケーションのルールやマナーを守ることが大切です。さらに、社会のルールを無視して活動を一方的に推し進めるような行為にならないように気をつけることも必要です。

